

行田市教育委員会 「学力向上プラン」の推進

1 主な取組と施策

(1) 学力定着への支援

- ① 9年間を見通した教育課程の編成・実施
 - ・年間指導計画の作成と実践
- ② 授業の質の向上
 - ・うきしろスタンダードの利活用
- ③ 読書環境の充実と読書活動の推進
 - ・学校図書室の整備と活用
- ④ 全国学力・学習状況調査、県学力学習状況調査の活用と目標達成
 - ・学校の課題に対する効果的な取組の実践
- ⑤ 児童に寄り添った学習支援の推進
 - ・パワーアップサポーターの拡大など人的配置と指導法の工夫

(2) 指導力向上への支援

- ① 教員研修の充実
 - ・県立総合教育センターとの連携
- ② 特別支援教育体制整備事業の推進
 - ・早期療育の充実と特別支援教育の専門性向上

(3) 「たて」・「よこ」連携への支援

- ① 小中一貫教育の推進
 - ・目指す子供像の共有と学びと育ちの連続性の確立
- ② 博学連携事業の推進
 - ・郷土博物館、さきたま史跡の博物館との連携
- ③ 学校・家庭・地域が一体となった教育の推進
 - ・地域の教育力の導入

未来をひらく人材と文化をはぐくむまちづくり

— 日本遺産認定「和装文化の足元を支え続ける足袋蔵のまち行田」—

学力向上の合い言葉「まなびのめ」

- ま まえ向きに あきらめず
- な なぜだろうと じっくり考え
- ひ ひろげよう 学んだことを
- め のびるコツは 予習・復習
- め めざそう 真の学力アップ

学力定着への支援

- 9年間を見通した教育課程の編成・実施
 - ・小中一貫教育基本方針を基にした計画
 - ・教育研究会と連携した各教科カリキュラム検討委員会（年間指導計画作成）
- 授業の質の向上（うきしろスタンダードの実践）
 - ・「うきしろスタンダード」映像版の活用【新規】
 - ・「家庭学習のすすめ」ダイジェスト版の活用
- 小学校英語活動の充実
 - ・ALTの増員と4校合同研修会の実施
 - ・教科化に向けた研修の充実と準備
- 読書環境の充実と読書活動の推進
 - ・学校図書室ボランティアの配置【新規】
- 全国学力・学習状況調査の目標達成（本市の目標 県平均以上）
 - ・うきしろフォローアッププログラム（うきしろ学力調査・フォローアッププリントの配付）の実施
- 児童生徒に寄り添った学習支援の推進
 - ・少人数学級編制（浮き城先生・教育指導員）の実施と検証
 - ・パワーアップサポーターの配置と検証

学びをつなぐ

《行田市小・中学校のPDCA》

- P：各学校における学力向上プランの作成
- D：学力向上プランに沿った教育課程の実践
- C：全国・県学力調査、単元テスト等各種調査の実施と結果分析
- A：課題の明確化とさらなる学力向上に向けたプランの作成

絆をつなぐ

- 小中一貫教育の推進（研究発表校：南河原中、南河原小）
 - （研究校：忍中、中央小、星宮小）
 - ・育てたい児童生徒像の共有化
 - ・学びと育ちの連続性を重視した教育の推進
- 保幼小連絡協議会による連携教育の推進
 - ・小1プロブレムの解消・「スタートカリキュラム」「アプローチカリキュラム」の活用
- 博物館・美術館等を活用した子供パワーアップ事業の推進（中央小・忍中）
- 学校・家庭・地域が一体となった教育の推進
 - ・コミュニティ・スクールの推進
 - ・積極的な情報提供
 - ・望ましい生活習慣の育成、促進
 - ・家庭学習の習慣化、促進

指導力向上への支援

- 教員研修の充実
 - ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に係る全教職員研修【新規】
 - ・市教育研修センターでの市の課題を見据えた研修
 - ・学校研修課題への訪問指導・助言
 - ・教育指導委員研修の充実と活用
 - ・行田市年間指導計画作成委員会の実施
 - ・「足袋のまち行田」（小3社会）の学習
- 特別支援教育体制整備事業の推進
 - ・早期療育（ステップ教室）の充実
 - ・特別支援学級担任等の専門性向上のための支援
- 道徳指導法委員会の創設

「たて」・「よこ」連携への支援

うきしるスタンダード

行田市学力向上推進委員会



うれしさアップ・やる気アップにつながる励まし言葉

小さなことでも
ほめる

気付いたら
すぐにほめる



結果ではなく
過程を（努力を）
ほめる

具体的にほめる

明るく笑顔で、名前を添えて

話し言葉		書き言葉	
学 習 (授業)	生 活 (当番・係等)	学 習 (ノート指導等)	生 活 (日記・連絡帳・生活記録ノート等)
一生懸命 やってるね	ありがとう 助かったよ	〇〇さんのノートは みんなのお手本です	~している姿は すばらしい
いいところに 気付いたね	がんばってい るのを知って いるよ	この学習が あなたの力に なっています	〇〇さんの がんばりに拍手
この考え すごくいいね	すごいね! たいしたもんだ	がんばって 続けていますね	さすが 〇〇さんです
〇〇さんなら できるよ	みんなに紹介 するね	よくまとめて いますgood!	応援しているよ

全てのことは信頼関係から。そして、あなたの言葉であなたらしく。

学力向上の合い言葉「まなびのめ」

- ① まえ向きに あきらめず
- ② のびるコツは 予習・復習
- ③ なぜだろうと じっくり考え
- ④ めざそう 真の学力アップ
- ⑤ ひろげよう 学んだことを

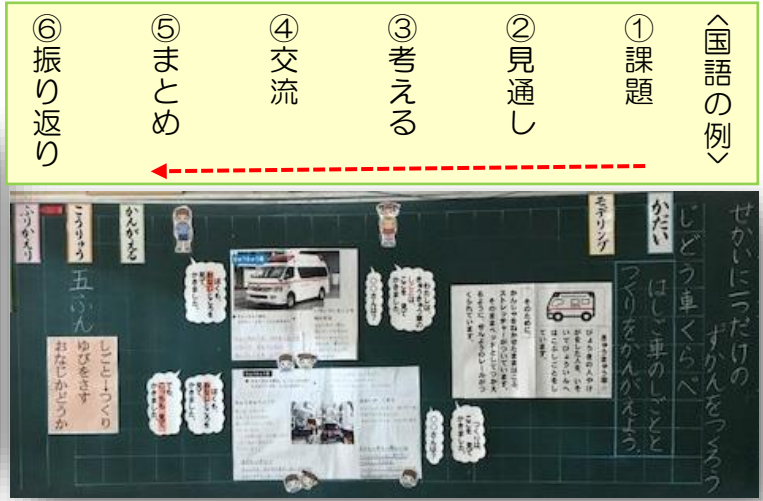
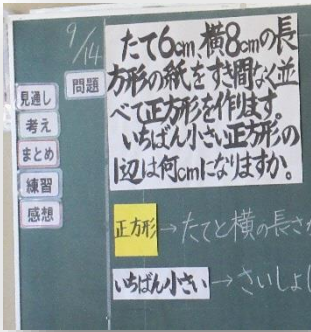


きちんと整理され、課題とまとめが明確な板書

1 流れがわかる

<算数の例>

- ① 問題
- ② 課題
- ③ 見通し
- ④ 考える
- ⑤ まとめ
- ⑥ 練習
- ⑦ 振り返り



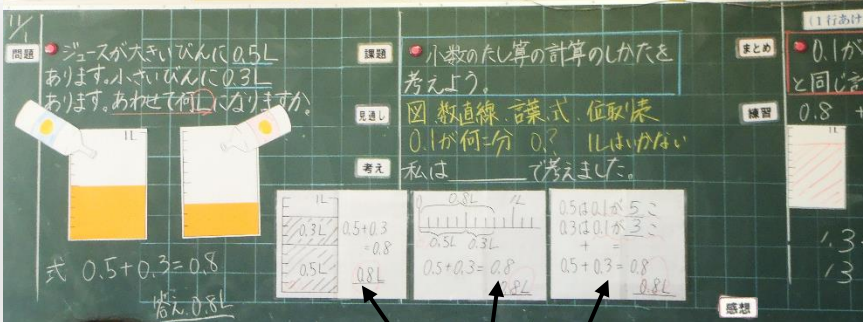
本時の課題 「きちんと整理され、課題とまとめが明確な板書を書こう」

- 1 そもそも板書とは「情報共有の場」である！
- 2 「本時のめあて」と「まとめ」がリンクしている
- 3 事前に板書計画を立てておく → **学習の可視化**
- 4 子供の意見や思考のプロセスを生かす
- 5 記号、矢印、アンダーライン等視覚に訴える
 - チョークの色の約束 記号の約束を決める
 - 例 赤：最重要 黄色：重要 ⑥注意
 - 箇条書きや図式化で見やすくわかりやすく

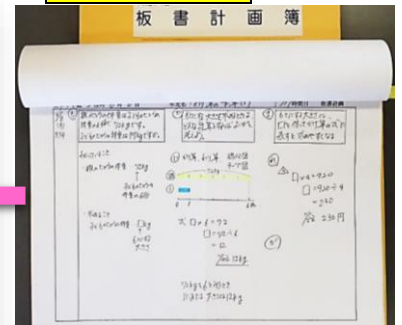
2 見やすく チェックポイント

- ① 板書の字の大きさと丁寧さ・配色
- ② 子供の意見が活かされている
- ③ 教室の端の子供にも見やすい
- ④ ノートをとる時間は確保
- ⑤ 写真や記録をとって工夫・改善

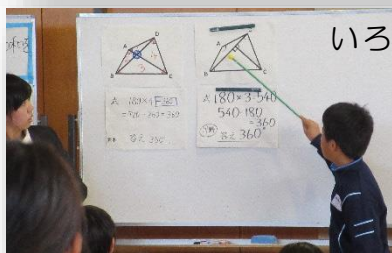
3 子供の考えを深める



4 準備 8割

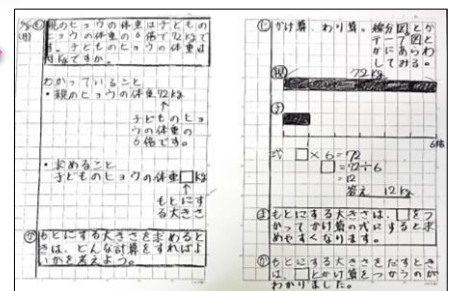


板書計画簿を作成



いろいろな子供の考え方

ノートとリンク



補助黒板等の活用



しっかり振り返り、やる気いっぱいの家庭学習

家庭学習の定着を目指して

学習メニューを決める

①学習したことや、学習することをまとめる？

②練習する？

③好きなことを調べる？

めあてを書く

①授業の復習・予習

②反復練習(繰り返し練習)

③研究(調べる、まとめる)

学習の振り返り

- ・メニューを決める
- ・日付、学習場所を書く
- ・開始、終了時刻を書く

- ・何を学ぶのか
- ・何をできるようにするのか
- ・何に気を付けて学ぶのか

- ・めあてを守れたか
- ・分かったこと
- ・次にやりたいこと
- ・思ったこと(感想)

学習時間の目安

<小学生：宿題＋自主学習>
(学年＋1) × 10分間
<中学生：予習・復習>
(学年＋1) 時間

ノートの使い方

- ・下敷きを使う
- ・すきまなく書く
- ・ていねいに書く
- ・線は定規を使う

家庭学習で身に付ける力

「継続は力なり」

- ①毎日続ける力
- ②決められた時間をやりぬく力
- ③自分で少しずつ工夫する力

毎日続ける！

① 授業の復習・予習

- ☆復習は、小学1年生から続けて行う。
(教科書を読む、もう一度やってみる、ノートを見直す、大切なことを書く等)
- ☆高学年は、中学校での学習を意識して予習も行う。(新単元の音読、言葉調べ等)

②反復学習(繰り返し練習)

- ☆漢字や計算は、繰り返し練習することで定着を図る。
- ☆学校で「分かった」ことが、反復練習によって「できる」という自信に変わる。

③研究(調べる、まとめる)

- ☆中学生は、授業の進度が早くなるため、予習をする習慣を身に付ける。授業が理解しやすくなり、集中して学習できる。
- 復習** 学習したことの習熟、定着を図る。
- 予習** 授業の理解を助け、集中力を高める。
- ☆教科書を読む。新出単語、漢字に取り組む。

- ☆難しい問題に挑戦する。
- ☆授業で学習したことを、さらに調べる。
- ☆自分の好きなこと、知りたいこと、覚えたいことをいろいろな方法で調べる。
- ☆言葉、図、表、絵等で工夫してまとめる。
- ☆自分の考え(意見や提案)を書く。

<授業>と<家庭学習>の相乗効果で一人一人の力を高める！

<家庭学習>

- ☆ノートの確認は、その日のうちに。
- ☆励まし言葉を添える。
- ☆学習場所や時刻、時間も見る。
- ☆見直し、間違い直しの習慣をつける。
- ◎よい点を認め、クラスに広げる。
→ノートづくりのヒントへ

家庭学習も教師の見取りと支援が必要



<授業>

- ☆課題提示、板書、発問等の工夫
- ☆理解や定着を確認する場の工夫

3

論理的でわかりやすく、生き生きと学び合える教師の発問

全教科に共通した「発問のポイント」

- 発問の意図を明確にしておく。
- 発問に対する応答を予想しておく。
- 発問の内容が1回で子供に伝わるよう、短く簡潔にする。
- 発達段階に応じた適切な言葉遣いで、手本となる話し方をする。
- 「話す速さ、言葉の調子と抑揚、間の取り方、豊かな表情」を意識する。

なぜ～なのでしょう？



導入

「問い」や「思い・願い」を引き出し、学習課題を明確にする。

- なぜ～なのでしょう。
- なぜそう思ったの。
- 本当にできるのかな。
- ～は、全てにあてはまるのかな。

「主体的な学び」の
原動力に！

展開

課題の追究・解決の見通しをもたせる。

- 今まで学習したことで、使えそうなことはないですか。
- 解決するために、どんな工夫ができそうですか。
- ～は、どんな働きをするのかな。

「見方・考え方」を
働かせるきっかけに！

課題の追究・解決に取り組ませる。(ペア・グループ)

- どうやって考えたのかな。
- もう少し詳しく聞かせてください。
- 似ている考えを集めてみよう。
- ～さんと～さんの意見はどこが違うのかな。

「主体的・対話的で
深い学び」を促す！

課題の追究・解決をより深める。

- ～と～を比べて考えるとどうですか。
- ～の視点から考えるとどうですか。
- 言い換えるとどういうことかな。
- ～と～とをまとめるとどうなりますか。

「思考の広がりや
深まり」につなげる！

終末

ねらいと対応して自分の言葉で振り返らせ、新たな学びへの意欲付けを図る。

- 出た意見の中でどれが一番納得できましたか。
- まとめると、どういうことですか。
- 今日の学習で分かったことは何ですか。
- 日常生活に使えると思ったことはありますか。
- もっと調べてみたいことはありますか。

「振り返り」が学び
を深め、「次の学びへ
向かう力」を育成！